

ベルフオンテンレポート2010

8月4日(水)～8月10日(火)、鈴鹿市内の中学生・高校生12名が、鈴鹿市の友好都市であるオハイオ州・ベルフオンテン市にホームステイ体験に行きました。

昨年は新型インフルエンザの影響を受け、ベルフオンテン事業が中止となってしまったため、2年ぶりのベルフオンテン派遣となります。

今年は公立中学・高校からの参加者が多く、色々な学校の子供達が参加した為、学校の枠を超えた仲間作りが出来、絆も深まりました。「一致団結」という言葉が、ベルフオンテン市長室に掲げてありますが、まさに文字通り、一致団結して全てに前向きに取り組んだ派遣生たちでした。

☆スケジュール☆

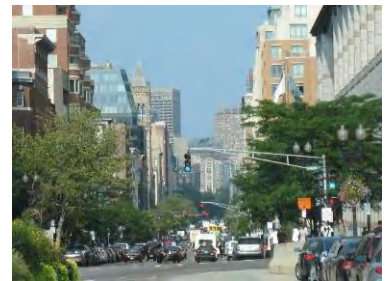
8月 4日(水)	鈴鹿出発→ポストンへ 旧州議事堂、ベンジャミンフランクリン像、オールドサウス集会場見学 ファニエル・マーケット・プレイスにて食事&買い物 ポストン泊
8月 5日(木)	ポストン ハーバード大学・学生協 フェンウェイ球場 黒人系米国人(アフロアメリカン)博物館 見学 ベルフオンテンへ→ ホームステイ
8月 6日(金)	市内各施設訪問 ・市長表敬訪問 ・消防署見学 ・ローガン郡小中学校教育長訪問 ・ホンダ オブ アメリカ イーストリバティ工場見学 ・リトルラーナーズデイケアセンターにて子供たちと交流 ホームステイ
8月 7日(土)	ホームステイ
8月 8日(日)	フェアウェルパーティ ホームステイ
8月 9日(月)	ベルフオンテン出発
8月10日(火)	帰国

〔ポストン〕

ベルフオンテンに入る前の視察地はポストンでした。

マサチューセッツ州にあるポストンは、アメリカで最も伝統のある街で、町並みも大変美しいです。

市の条例で新しい建物に対しての規制がとても厳しく、町では、あちこちで建物の修復工事が行なわれています。煉瓦造りの建物や石畳、街路灯にはガス灯が使われており、とても趣がありました。



ポストンと言えば、アメリカ発祥の地です。

フリーダムトレイルという、街の中心部の道路に引かれている赤いラインを辿っていくと、市内の主要な観光地を巡ることが出来、アメリカ発祥から独立に至るまでの軌跡が垣間見られます。

ポストンマラソンの終盤コースや、松阪大輔が活躍するレッドソックスの本拠地フェンウェイ球場、名門ハーバード大学などを見学して、お昼には名物



マサチューセッツ州議事堂前にて

のクラムチャウダーをいただきました。

そしてアフロアメリカ人史博物館では、黒人が受けてきた差別について、人権について、ひいては多文化共生社会の実現について、2期前の先輩から受け継がれて来ているテーマについて話をしながら、見学しました。

〔ベルフオンテン〕

*ベルフオンテン市長を表敬訪問

出発式で川岸市長から預かった書簡を、ベルフオンテン市長にお渡しし、鈴鹿を代表するアーティスト大谷芳照氏の紹介や、飾り紐の紹介などをしました。大谷芳照さんがベルフオンテン市長に宛てて書いて下さったサイン入りの作品集をお渡しし、また、派遣生達が一本の組紐から菊の飾り花を作り、市長やローガン郡のコミッショナーの方の胸に付けて差し上げたところ、大変喜ばれました。

ベルフオンテン市長室にて→



* 消防署見学
市庁舎に隣接した消防署を見学。消防士さん達が休む部屋や待機室などを見学し、その後、降下体験や消防服の試着体験、消防車の見学をしました。



* ローガン郡の教育長との面会



ここでも、飾り紐を披露しました。レセプションなどの時、西洋では胸元に薔薇の造花などを付けますが、日本のフォーマルな衣装の和服にはそれは似合わず、よく飾り紐で作った菊の花を付けるそうです。菊は天皇家のご紋ですね。

他にも、茶道・書道の紹介をしました。「一期一会」の意味やお手前のやり方など、ひとつひとつ説明し、実際に本物の茶器を使って、飲んでいただきました。教育長達は、大変興味深く話を聞き、茶道の体験をされました。



* ホンダオブアメリカ

イーストリバティ工場の見学をしました。最初に昼食をご馳走になって、モニターを見ながら説明を聞きました。そしてイヤホンと防御用メガネをはめていよいよ工場見学。かなりハイテク化されており、工場内をたくさんのロボットが動き回っていました。HONDAのマークが入ったバッグをプレゼントしていただき、最後に記念写真を撮りました。



* リトルラーナーズデイケアセンター

毎年派遣生にとって一番人気の保育所訪問です。小さい可愛い子供たちが、私達を出迎えてくれ、派遣生たちも大喜びです。疲れ始めていた派遣生たちの目が、たちまち輝き、とても元気になりました。日本から作っていったアニメキャラクター5種類の福笑いを広げ、無邪気な子供たちと



一緒に楽しみました。

* フェアウェルパーティ

ここでは、研修でやってきたこと全てを披露しました。鈴鹿出身の世界的アーティスト大谷芳照さんの紹介。茶道・書道と鈴鹿墨の紹介とデモンストレーション。よさこいの「よっちょれ」と「うらじゃ音頭」の披露。そして最後にホストやIFCのみなさんに、感謝の気持ちを込めて、マイケルジャクソンの「Heal the world」を歌いました。歌の最後には感極まって、泣き出す派遣生やホストもいて、大変心温まる素敵なパーティになりました。



5泊7日の短い旅でしたが、派遣生たちにとって、大変貴重で有意義なホームステイ体験でした。これをステップに、みんな世界に大きく羽ばたいていって欲しいと思います。